

奨励賞

苔むしりの少女

大矢 詩季

遺伝子の嘆き、集落の女へ  
不自由の洗脳を、次の娘へ、今の女へ

少女の決意、遺伝子の決意、  
苔をむしれ、時はきたから。

煮つめたような、季節の濃度

或る集落に、遺伝子ひとつ

根おろした大樹、構えられた仕組み

おさまる赤子、守るのは遺伝師

幼女は歩いた、千手のてのひら

しばし杜の子、ヒメカミの時間

遺伝子は流れた、守りのおそとへ

枝分かれのしるし、流れる少女

慣れぬ土地の力を借りた、知の打破、

むせた娘、十九歳。

煮つまった集落、苔むした岩

守ってしまったらしい、女たち